

## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の  
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告により、当社ホームページ  
(<http://www.advanced-media.co.jp/ir/>)  
に掲載いたします。なお、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

## 第16期 年次報告書

2012.04.01～2013.03.31



## 2013 AMI Report

## 会社概要 (2013年3月31日現在)

会社名 株式会社アドバンスト・メディア  
設立 1997年12月  
資本金 45億8,509万円  
取引銀行 三井住友銀行、みずほ銀行、他  
所在地 本社 〒170-8630  
東京都豊島区東池袋3-1-4  
サンシャインシティ文化会館6階  
Tel:03-5958-1031 (代表)  
Fax:03-5958-1032

連結子会社 AMIVOICE THAI CO., LTD. (タイ王国)  
業務提携先 Multimodal Technologies, LLC. (米国)

## Vision

### Human Communication Integrationの実現

アドバンスト・メディアは、  
「機械」との自然なコミュニケーションを実現し、  
豊かな未来を創造します。

株式会社アドバンスト・メディア

証券コード：3773



# 連結業績概要

当社グループは、第2次中期経営計画に基づき「ソリューションとプロダクトの商品力強化による拡販」および「新機軸サービス事業への取り組み」の各施策を実施し、事業を推進いたしました。

## 売上高

- KDDI株式会社の話しかけるだけでスマートフォン操作をサポートするアプリ「おはなしアシスタント」に当社の音声認識技術 **AmiVoice**<sup>®</sup> が採用されるなど、従来から取り組んでまいりましたスマートデバイスの普及を想定した商品開発および営業活動が奏功し、クラウド事業部のライセンス収入が当初計画を大幅に上回りました。
- パートナー企業であるみずほ情報総研株式会社との連携を中心に大手生命保険会社へ「コールセンター向けソリューション」の導入を進めました。
- 議事録分野において、ASP化による月額課金モデルによる導入が増え、新たに中央省庁・地方自治体向けに20件導入し、前連結会計年度と比較し導入件数を大幅に増やすことができました。
- 他分野に関しても計画値を上回りました。

これらの結果、全体での売上高は1,573百万円（前期は1,239百万円）となりました。

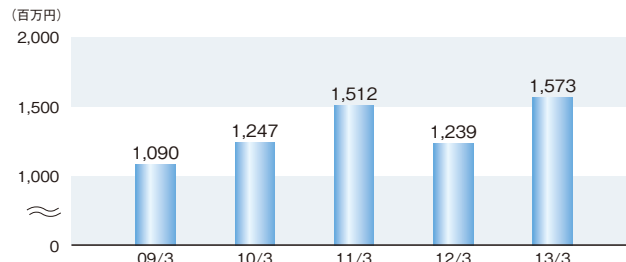
## 損益

- 売上高が伸長するとともにライセンス収入が増大したため粗利益率が向上し、当初計画していた営業損失が大幅に改善いたしました。
- 保有している米ドル預金などが円安の影響により為替差益216百万円を計上いたしました。
- 保有していたMModal, Inc.（米国）株式全てを売却し特別利益として投資有価証券売却益663百万円を計上いたしました。

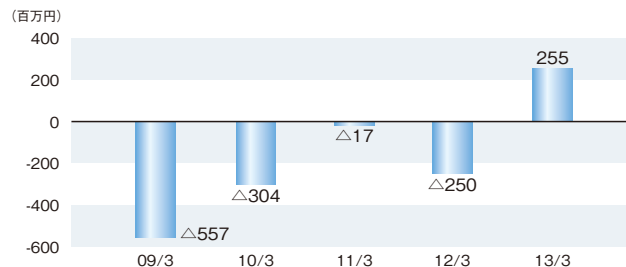
これらの結果、営業損失は14百万円（前期は営業損失290百万円）、経常利益255百万円（前期は経常損失250百万円）、当期純利益は836百万円（前期は当期純利益1,646百万円）となり経常利益および当期純利益での黒字化を実現いたしました。

## 財務ハイライト

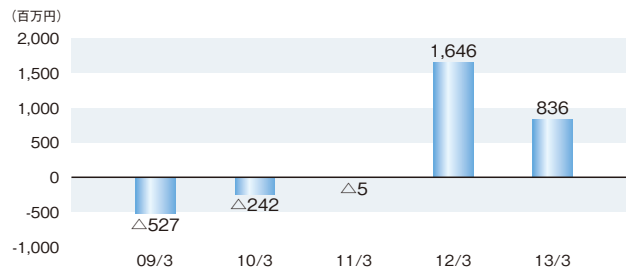
### ●連結売上高



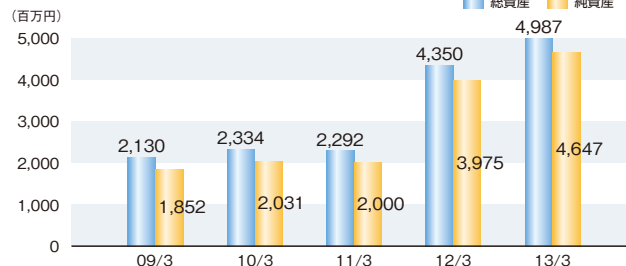
### ●連結経常利益(損失)



### ●連結当期純利益(損失)



### ●連結総資産・純資産



株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに、当社第16期年次報告書をお届けし、当社事業概況のご理解の一助となれば幸いです。

第16期において当社グループは、人が機械に自然に意思を伝えられる「ソフトコミュニケーションの時代」を拓くべく第2次中期経営計画を推進いたしました。当連結会計年度は、「ソリューションとプロダクトの商品力強化による拡販」および「新機軸サービス事業への取り組み」の各施策を実施し、事業を推進いたしました。

そのような中、今期において「新機軸サービス事業への取り組み」として以下の内容を進めることができました。

■溢れる声をデータにするサービス事業「ボイスデータサービス(VDS)」

- ①議事録分野でASP化による月額課金モデルの導入
- ②医療分野でスマートフォンやタブレット端末などを活用し、いつでもどこでも場所を選ばずに音声認識によるテキスト作成が可能な放射線科専門医向け「AmiVoice® Smart for Radiology」のサービスを開始
- ③CTI分野で中小規模コールセンターでも、初期費用を抑えて、安価かつ手軽に利用可能なクラウド型音声認識サービス開始

■声が価値を生み出すサービス事業「ボイスアクティベーションサービス(VAS)」

- ①KDDI株式会社「おはなしアシスタント」に当社音声認識技術AmiVoice®が採用
  - ②iPhone向けアプリとして、バーチャルキャラクター「AOI」と対話を通して情報検索を行うアプリケーション「AOI Browser」を配信
- これらの取り組みとあわせて「ソリューションとプロダクトの商品力強化による拡販」を行った結果、売上高1,573百万円、営業損失14百万円と当初計画を大幅に上回る結果となりました。

また、当社事業の中核である音声認識技術は、近年急速に普及したスマートフォンやタブレット端末との相性の良さから、その活用の範囲は急速に拡大しております。様々なデバイスや通信技術の進歩が加速的に進み、膨大なデータをコントロールしなければならないとき、これまで以上に「人に優しい」インターフェイスが求められてきます。このような中で、当社は、第2次中期経営計画で掲げた「新機軸サービス事業」「グローバル展開」の取り組みをさらに加速させるために、ウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合を割当先にした第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第3回新株予約権を発行し総額約60億円の資金調達を行います。あわせて、本割当先の業務執行組合員である株式会社ウィズ・パートナーズとの間で、2013年5月10日付で投資契約書を締結し、同社と連携し当社の企業価値向上（バリュー・アップ）を図ってまいります。これらの取り組みから「ソリューションとプロダクトの商品力強化による拡販」「新機軸サービス事業の展開」「グローバル展開」を成し遂げ企業価値向上を推進してまいります。

今後とも、株主の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月  
代表取締役会長兼社長  
鈴木 清幸

KDDI株式会社「おはなしアシスタント」に当社音声認識技術AmiVoice®が採用



株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ2012冬モデルスマートフォンAQUOS PHONE ZETA SH-02E (シャープ製)等に当社音声認識技術AmiVoice®が採用



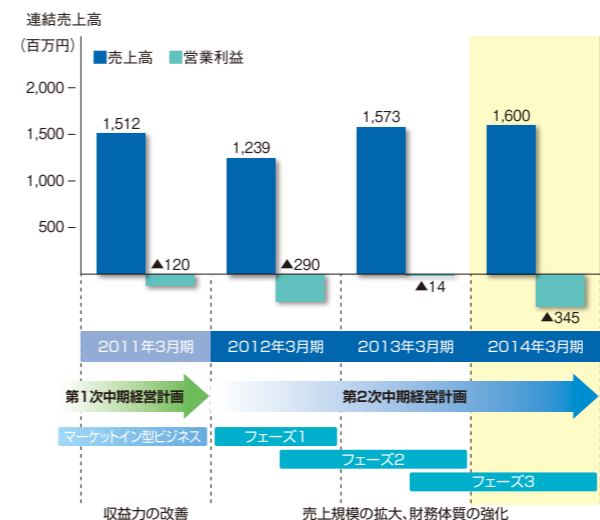
iPhone向けアプリとして、バーチャルキャラクター「AOI」と対話を通して情報検索を行うアプリケーション「AOI Browser」を配信



売上高にしましては、音声認識技術の市場は広がっているものの市場創造を行いながら売上増大を目指すため、今期については保守的な売上目標を設定いたしました。

また、「ソリューションとプロダクトの商品力強化による拡販」「新機軸サービス事業への取り組み」「グローバル展開」を加速させるために積極的な研究開発投資を行い、一般管理費が増大するため営業損失が増大する目標を設定いたしました。

売上・損益計画



	2011年3月期 (連結実績)	2012年3月期 (連結実績)	2013年3月期 (連結実績)	2014年3月期 (予想)
売上高(成長率)	1,512 (-)	1,239 (-18.1%)	1,573 (27.0%)	1,600 (1.7%)
営業利益	▲120 (-)	▲290 (-)	▲14 (-)	▲345 (-)
経常利益	▲17 (-)	▲250 (-)	255 (-)	▲350 (-)

2013年5月10日にウィズ・アジア・エボリューション・ファンド投資事業有限責任組合を割当先とした総額60億円の株予約権付社債および新株予約権を発行。また割当先の業務執行組合員である株式会社ウィズ・パートナーズとの間で投資契約を締結し同社と連携し、事業を推進してまいります。

ビジネス対象マーケットの拡大  
資金投入

- ① 多言語対応の研究開発投資
- ② 国内外での事業加速化のためのM&A

対象先: ① アプリケーション ② 顧客ベース ③ 開発リソース

調達した資金の使途  
(予定時期: 2013年6月から2017年5月)

1	音声認識精度向上のための研究開発投資	300百万円
2	多様なアプリケーション開発を可能にするための周辺技術への開発投資	250百万円
3	国内・海外での事業展開を加速させる協業連携(発掘・M&A)	5,103百万円
4	多言語での音声認識を実現するための研究開発投資	350百万円
合計		6,003百万円